

# ノルディック・ウォーキング講習会

## 募集定員を上回る参加者

### 介護予防への関心の高さを示す

4月8日(土) みみはらホールを会場にみみはら高砂クリニックと健康づくり委員会の共催でノルディック・ウォーキング講習会が開催されました。全日本ノルディック・ウォーキング連盟の公認指導員を講師に招いて、募集定員を上回る45人の参加者で大盛況となりました。

ノルディック・ウォーキングとは、動かせて歩くことができる北欧フィン専用のポールを使い、上肢の筋群も活

びることで歩幅が広がり、全身の90%の筋肉を活動させることで通常歩行の約1・2倍のカロリーを消費できます。健康増進を目的に実施することや、両脚・左右のポールで4点支持となるため、歩行時の膝・腰・足首の関節の負担を軽減。バランスが安定し、リハビリや介護予防を目的に実施することもできます。

専用ポールを使って実際に歩いてみました

参加者からは「歩行に自信がなかったけどポールを使えば楽に歩ける」「一本杖より安定するので歩行時の不安が軽減される」などの感想が寄せられました。



はじめる前に必ずストレッチを



### 理事会報告

#### 4月度理事会(概要)

4月24日(月)午後7時から理事28名の出席で2017年度・第19回理事会が同仁会本部3階で開催されました。

理事長挨拶のあと、専務より会務報告、その他友の会活動等の報告が行われ、出席理事全員が報告及び協議事項について承認しました。

#### ＜主な内容＞

- ①全日本民医連、大阪民医連、拡大常任理事会報告
- ②友の会活動と健康づくり、医

多くのご参加をお待ちしています

## 第17回 医療介護安全大会

日時 7月8日(土) 午後2:00~5:00

場所 耳原総合病院 地域交流ゾーン みみはらホール

講師 藤本卓司先生 (6月より耳原総合病院着任予定)

## 連載

### 耳原総合病院建替え事業にみる協同の思想

その6

立命館大学産業社会学部教授  
都市社会学者・同仁会理事

リム・ボン

#### (前号よりつづき) 8. ホスピタルアートの導入

2012年度に入って、ホスピタルアート(芸術の力を借りて患者の心を癒す方法)を大胆に取り入れるようになった。これは耳原総合病院建て替え事業の大きな特徴である。

これは現場の看護師や医師たちからの要望に端を発するのだが、誰よりも奥村院長自身が先頭に立って大胆にプロジェクトを推進させた。最大の功労者は奥村院長といっても決して過言ではない。新病院建設プロジェクト事務局会議では、「あった方がいいがメンテナンスが大変そう」「好みがそれぞれ異なるので難しそう」「癒すことは大事」「飽きが来ないものを」「アーティストに頼むより、病院内美術部や友の会の方々の作品を飾った方が耳原らしいと思う」「小児科の壁は好きだけど落書きができるものにする」「小児科の診療室の扉に動物の絵をあしらって」「何階何号室と」「より、鳥のフロアをつくすの部屋とかの方が馴染む」などの意見も出された。

その後、建設委員会内にアートプロジェクトが立ち上げられた。その目的は、①建設委員会

で決定したコンセプトのもと、新病院での癒しの空間の検討・具体化、②コミュニケーション企画などを通じて病院と関わる人たちのつながりを広げる、③今後誕生するであろう、アートプロジェクトの検証・承認などの取りまとめを行う、となっている。

筆者も顧問としてこれに参画した。このプロジェクトには専門家として、NPO法人アートプロジェクトの室野愛子氏が参画し、多くの芸術作品を開発し、同時にアートディレクターとしても活躍した。

また、多くの芸術家から絵画等を提供していただき病室を飾る「風の伝言プロジェクト」、ふれあいエントランスを彩るモニメントはユウコ・タカダ・ケラー氏が創作する」となども決定した。

(つづ)

